丹頂（タンチョウ）

タンチョウ博士のお話（第 37 回）

タンチョウの天敵は誰だ？

皆さんの中には「天敵」という言葉を見聞きした方も多いでしょう。

どうも相性が悪く、こちらの考えや振る舞いを鋭く批判するヒトを、冗談めかして言うときもあります。が、本来は生物学用語で、食う・食われるという食物としてのつながり（食物連鎖）のなかで、食われる方から見た相手を指す言葉です。つまり、ネズミにとってネコは天敵です。

では、なぜ敵ではなく「天敵」と言うのでしょうか。それは「不倶戴天」という句が「敵」の前についていたからで、「倶に天を戴か不」、つまり「同じ天下（世）にいるのを許さない敵」を短く言って「天敵」です。もちろん中国由来の言葉です。

とすると、タンチョウの天敵は誰でしょうか。はっきりしているのはまずキツネです。２羽のオスのタンチョウが縄張り争いで喧嘩中に、生後２週間ほどのヒナをキツネが咥えて走り去るのを見たヒトがいます。次はオジロワシです。生まれて20日ほどのヒナを脚でつかみ巣へ運ぶ写真や、飛べないヒナを何度も空から襲い、タンチョウの親が２羽で防戦する動画もあります。

目撃や写真はありませんが、外来種のアライグマも危険動物で、舞鶴遊水地では毎年罠をかけて駆除しています。ほかに猛禽類のチュウヒなども居ますから、小さいヒナには危険がいっぱいです。

そして、ついに事件が起きました。舞鶴遊水地のタンチョウは昨年初めて２羽の子を飛べるまで育てました。２羽育てるのは繁殖成功番いのわずか17％ほどですから、2020年の繁殖開始以来初の快挙を喜んでいました。ところが10月29日に事故が起きたらしく、翌30日は１羽だけ幼鳥を連れた親が、遊水地の東南端で、遊水地へ向いて大声で鳴いていたそうです（写真）。「呼び合い発声」という仲間や家族を呼ぶ行動です。が、行方知れずの子の応答はなく、数日で親の鳴く行動も消えました。ヒナは飛べるようになってからでも、独立するまでに５％くらいは亡くなるようです。ヒナが今回いなくなった原因は、まったくわかりません。

食う・食われるの関係は、現在の地球上で動物たちが共存するための一つの方法として、やむを得ないことでもあります。しかし、相手を食べつくしてしまえば、餌が無くなり、天敵とされていた動物も消える可能性が生じますから、バランスが大切なのです。

さて最後に、タンチョウにとり最強の天敵を挙げておきます。その動物の名はヒトです。タンチョウが20世紀初頭に絶滅の淵に立たされたのも、ヒトがタンチョウを食べるため長年狩猟を行ったのが大きな原因の一つです。タンチョウ滅亡の瀬戸際で、ヒトが天敵から保護者へと対応を変えた点は、ヒトという生き物の能力の高さを示すものでしょう。しかし、果たして永久に保護者であり続けられるのか、私の胸中に疑念があるのも確かです。（文：正富宏之）

〔写真〕いなくなった子を呼んでいる夫婦と幼鳥
（撮影：赤間優歩）

親子の情を示す振るまいで、映像を見ると切なさを覚えます。

►**問合先**　役場企画政策係（☎76-8015）

外国人の方が利用しやすい

119 番通報

「同時通訳」「タブレット、スマホアプリ」で多言語に対応！

南空知消防組合　栗山消防署・支署（長沼・由仁・南幌）では、119 番通報時や救急現場などで外国人の方に対応できるよう「同時通訳サービス」と「タブレット、スマホアプリ」を導入しています。

❶ 119 番通報の対応　～同時通訳～

外国人通報者と消防、電話通訳センターの三者同時通話
※電話通訳センターに繋がるまで数十秒かかりますので、電話を切らずにお待ちください

❷ 救急車での対応　～タブレット、スマホアプリ～

タブレット、スマホアプリ（多言語音声通訳アプリ）で会話

❸ 対応言語（24時間）

21 か国語

英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、フィリピン語（タガログ語）、ネパール語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロシア語、マレー語（マレーシア）、ミャンマー語、クメール語（カンボジア）、モンゴル語、ベンガル語、シンハラ語（スリランカ）、ヒンディ語（インド）

多言語 119 番通報はホームページをご覧ください►

【問合先】南空知消防組合長沼支署（☎ 88-2819）

長沼町公式 LINE 友だち追加►